

明治安田生命 夏に関するアンケート調査を実施！
今年は節約の夏！？消費増税やGW（10連休）の影響等から、貯蓄志向が高まり、
夏休みに使うお金は調査開始以来最低に！
「お盆玉」は徐々に定着？70代は4人に1人が「渡す予定」と回答！

明治安田生命保険相互会社（執行役社長 根岸 秋男）は、夏休みを前に、夏に関するアンケート調査を実施しましたのでご報告します。

1. 夏休みについて

- 節約の夏！？夏休みに使うお金は、消費増税やGW（10連休）の影響等から、
昨年から大きく減少し、調査開始以来最低の「68,071円」！ …（P4）

当社チーフエコノミスト小玉 祐一が「夏の消費」について分析！

- 過ごし方も節約志向？令和初の夏休みは「自宅でゆっくり」過ごす派が多数！
来年のオリンピックが影響？国内旅行の行き先は「関東」がトップ！ …（P6）

- 夏休みの日数の「理想」と「現実」のギャップは約1週間！
「働き方改革」浸透はまだまだ遠い？ …（P7）

2. 夏のボーナスについて

- ボーナスのうち、お小遣いをもらっている夫は約3割に留まる！ …（P8）

当社チーフエコノミスト小玉 祐一が「夏のボーナス」について分析！

3. お盆玉について

- 「お盆玉」は徐々に定着？70代は4人に1人が「渡す予定」と回答！
渡す金額は50代がトップ、60代、70代も平均1万円越え！ …（P10）

4. 帰省に関する調査

- 帰省費用は「31,472円」
「自動車」を選んだ人の選択理由は「安いため」がトップ …（P11）

対象者の属性

1. 調査対象

20-50代：1,120人

20-70代：1,680人

(注) お盆玉に関するデータのみ、20-70代のデータを使用
その他の質問については、20-50代のデータを使用

2. 調査エリア

全国

3. 調査期間

2019年6月17日(月)～6月24日(月)

4. 調査方法

インターネット調査

5. 回答者の内訳

(単位：人)

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	計
男性	140	140	140	140	140	140	840
女性	140	140	140	140	140	140	840
計	280	280	280	280	280	280	1,680

【 目 次 】

<u>1. 夏休みについて</u>	
(1) 夏休みに使う金額	．．．．． 4 ページ
(2) 夏休みの過ごし方	．．．．． 6 ページ
(3) 夏休みの日数における「理想」と「現実」	．．．．． 7 ページ
<u>2. 夏のボーナスについて</u>	．．．．． 8 ページ
<u>3. お盆玉について</u>	．．．．． 10 ページ
<u>4. 帰省に関する調査</u>	．．．．． 11 ページ

1. 夏休みについて

(1) 夏休みに使う金額

節約の夏！？夏休みに使うお金は、消費増税やGW（10連休）の影響等から、昨年から大きく減少し、調査開始以来最低の「68,071円」！

○「夏休みに使うお金」について聞いてみたところ、全体の平均額は、昨年から15,743円減少し、「68,071円」と調査開始以来最低額となり、今年は「節約の夏」となりそうです。また、男女別で見ると、男性は「72,845円」と昨年から4,028円減少した一方、女性は「63,298円」と、昨年から27,457円の大幅減少となり、特に女性において、「節約意識」が強いことがわかりました。

○次に、夏休みに使うお金を減らす理由を聞いてみると、社会保障制度等、将来に対する漠然とした不安感からか、1位は「今後の出費予定に備えるため」（34.6%）、2位は「預貯金に回すため」（31.4%）でした。年代別に見ると、2位の「預貯金に回すため」と回答した人の割合は、男性20代が47.4%、女性20代が42.3%、女性30代が46.7%と他の世代に比べ高い結果となり、特に若い世代において、貯蓄志向が強い結果となりました。

次いで3位には「（10月に）消費増税が控えているため」（29.6%）がランクインしており、消費増税は少なからず消費者心理に影響を与えているようです。また、4位には「5月のGW（10連休）に使ったため」（17.0%）がランクインしました。今年のGWは、新天皇のご即位に伴い史上初の10連休となり、国内外の旅行等へ例年以上にお金を使った人が多かったことも、夏休みの予算の減少につながっているようです。

～チーフエコノミスト小玉 祐一はこう見る！～

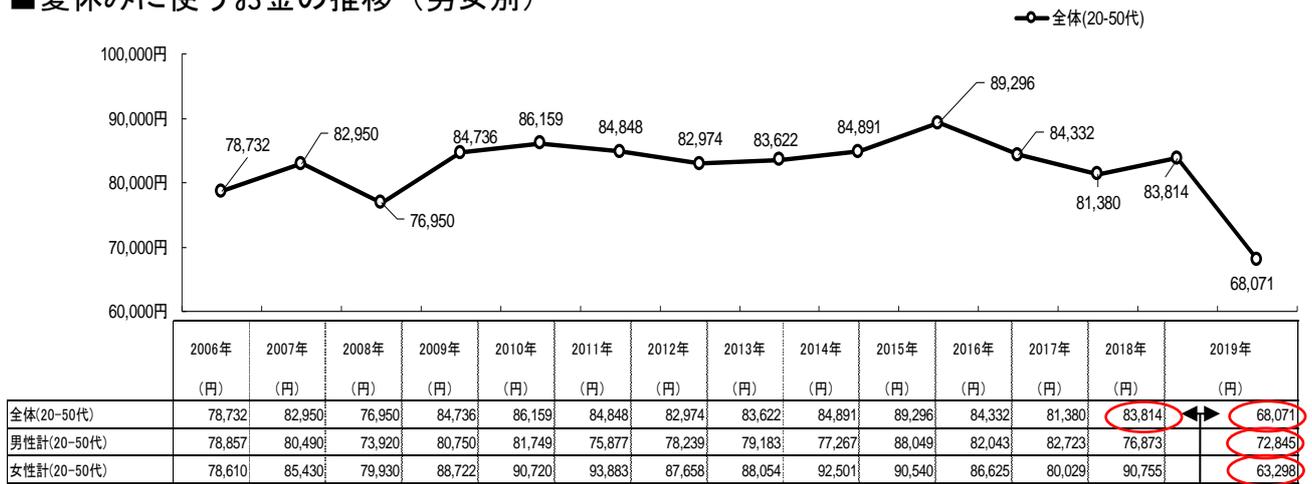
■明治安田生命チーフエコノミスト 小玉 祐一



●今年の夏の消費について

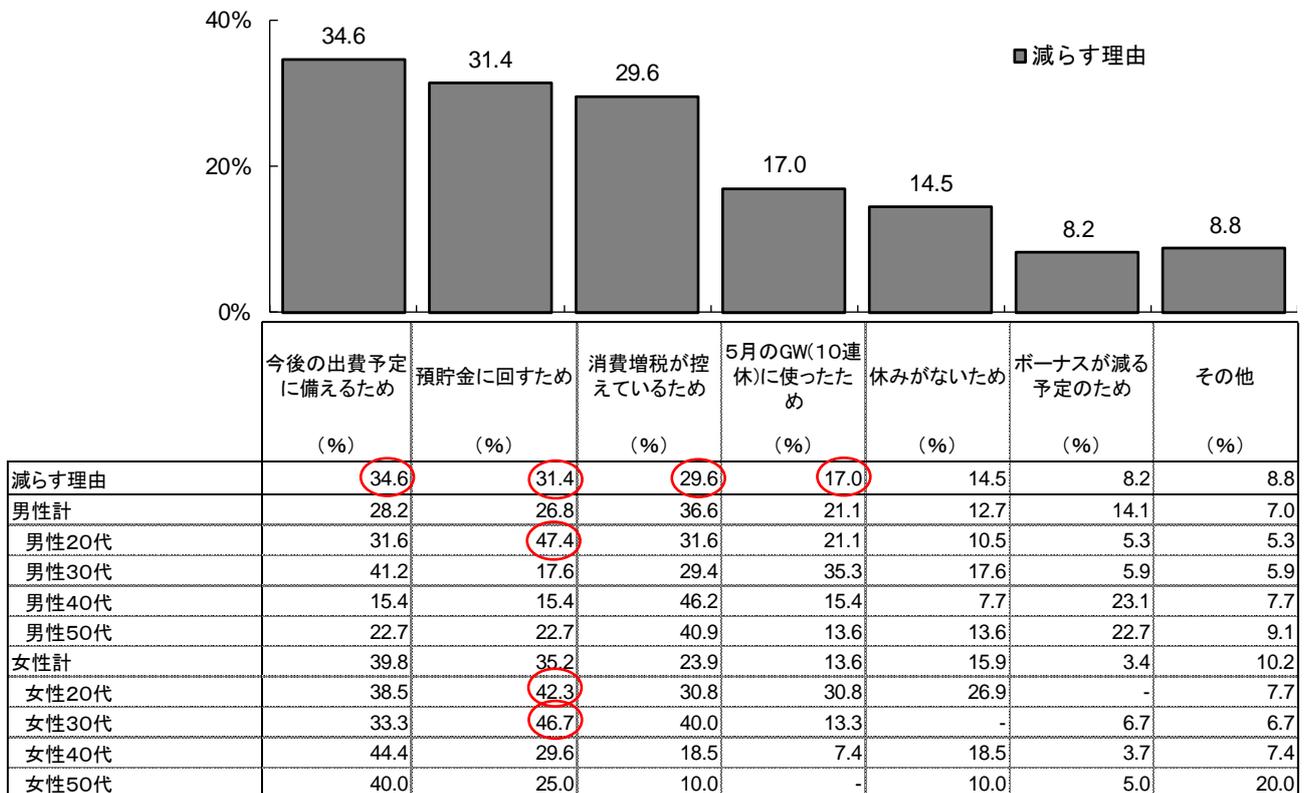
今回のアンケートでは、夏休みに使う金額が昨年から大きく減少するという厳しい結果となりました。要因として考えられるのは、まず、5月の10連休でレジャー等にお金を使ったのに加え、10月には消費増税も控えているために、家計の節約意識が高まっていることです。また、「老後の資金問題」が話題になっていることで、中長期的な貯蓄への意識が高まっている可能性も挙げられます。これは長い目で見れば良いことですが、目先の個人消費にとっては押し下げ要因です。10月以降は、政府の消費増税対策が一定の下支えになりそうですが、残念ながら個人消費が力強さを増す展開はあまり期待できません。

■夏休みに使うお金の推移（男女別）



昨年と比べ15,743円減少

■夏休みに使う金額を「減らす」理由（複数回答）



1. 夏休みについて

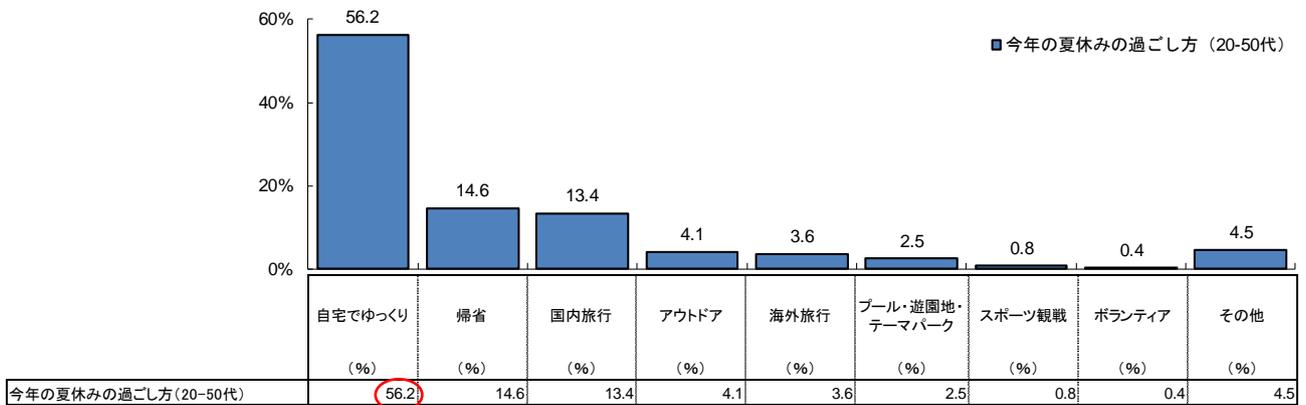
(2) 夏休みの過ごし方

**過ごし方も節約志向？令和初の夏休みは「自宅でゆっくり」過ごす派が多数！
来年のオリンピックが影響？国内旅行の行き先は「関東」がトップ！**

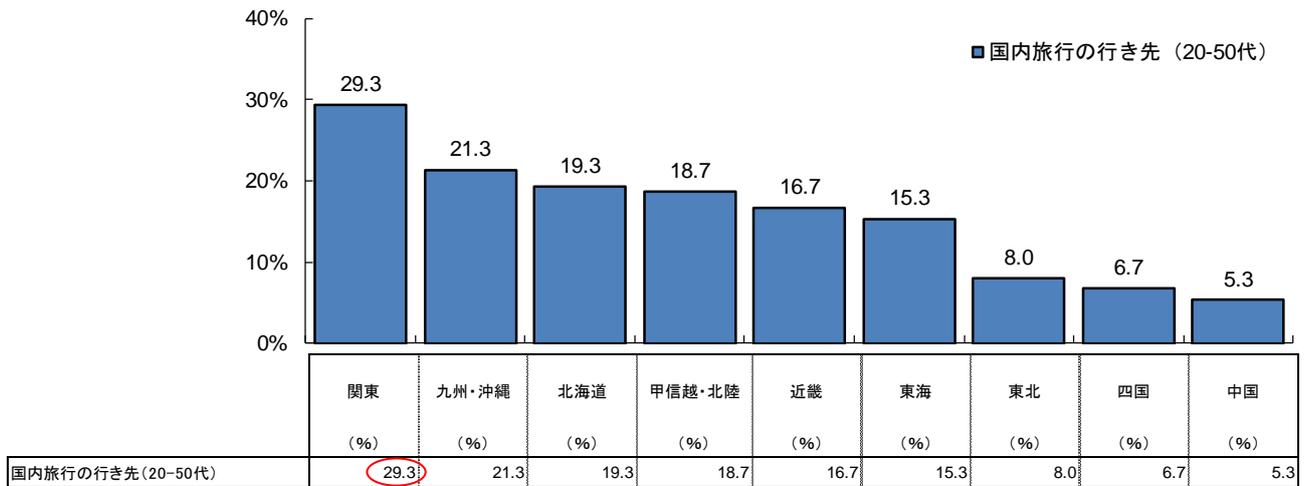
○夏休みの過ごし方について聞いてみたところ、1位は「自宅でゆっくり」(56.2%)、2位は「帰省」(14.6%)、3位は国内旅行(13.4%)でした。「節約の夏」は、「自宅でゆっくり」派が圧倒的に多く、旅行もコストを抑え、「帰省」や「国内旅行」で済まそうという考えの人が多いのかもしれませんが。

○夏休みの過ごし方で「国内旅行」と回答した人に、行き先を聞いてみました。昨年、調査開始以来初めて首位から陥落した「関東」(29.3%)がトップに返り咲きました。東京オリンピックを1年後に控え、東京の観光地としての注目度、人気がより一層高まっているのかもしれませんが。

■今年の夏休みの過ごし方



■国内旅行で行く地域 (複数回答)



1. 夏休みについて

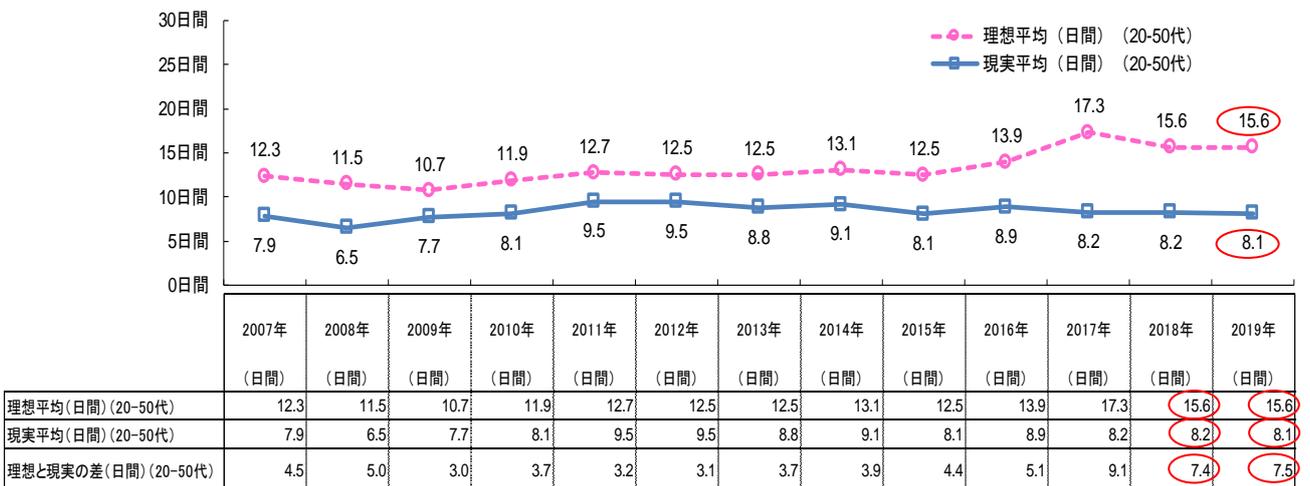
(3) 夏休みの日数における「理想」と「現実」

**夏休みの日数の「理想」と「現実」のギャップは約1週間！
「働き方改革」浸透はまだまだ遠い？**

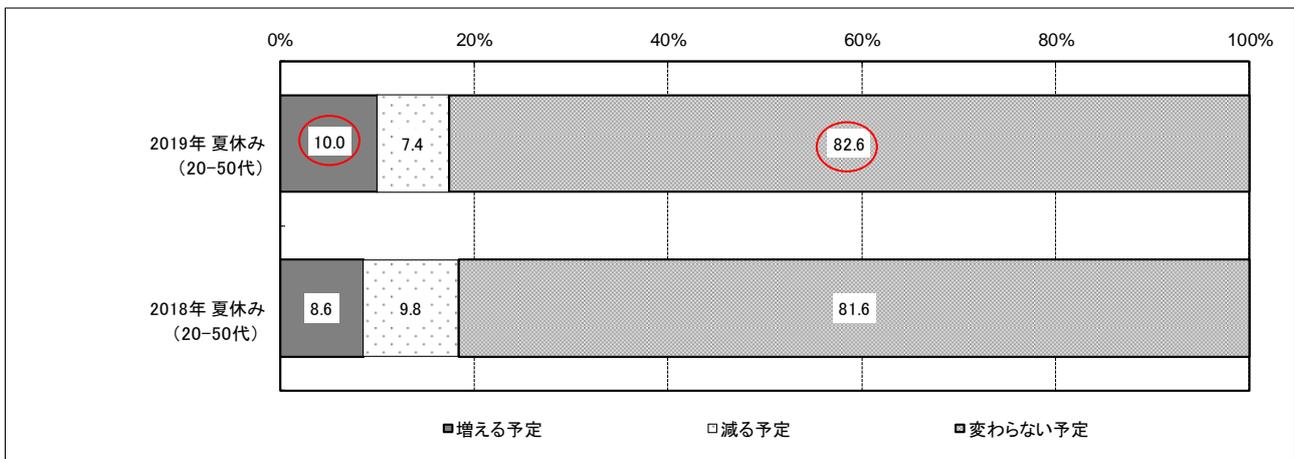
○夏休みの日数について、「理想」と「現実」を聞いてみました。「理想」の夏休みの日数は「15.6日間」、「現実」の夏休みの日数は「8.1日間」と、「理想」と「現実」のギャップ（差）には、約1週間の乖離が見られました。

○次に、夏休みの日数の増減について聞くと、「変わらない」と答えた人が82.6%と大多数を占め、「増える」と答えた人はわずか10.0%に留まりました。政府が推進する「働き方改革」により、企業の間でも「ワーク・ライフ・バランス」を意識した取組みが進んでいますが、夏休みへの影響はまだまだ限定的のようです。今年4月から施行された「働き方改革関連法」では、年次有給休暇の取得等が推奨されており、今後の夏休みの日数増加に向けた環境整備が期待されます。

■「理想」の夏休みの日数と「現実」の夏休みの日数の推移



■今年の夏休みの増減（昨年との比較）



2. 夏のボーナスについて

ボーナスのうち、お小遣いをもらっている夫は約3割に留まる！

- 夏のボーナスについて聞いてみたところ、「増えた」と答えた人は9.4%と、昨年を3.7ポイント下回りました。また、「減った」と答えた人は8.6%と、昨年を2.0ポイント下回りました。
- 夏のボーナスの使い道について聞いてみたところ、「預貯金」と答えた人が63.8%と、2位の「旅行」(32.2%)、3位の「趣味・レジャー」(30.5%)を大きく引き離し、トップとなりました。昨今、老後に必要な資金額等が大きな話題となっていますが、こうした将来への不安感が、預貯金への意識を高め、「節約の夏」に影響を与えているのかもしれない。
- 次に、夏のボーナスのうち、世のお父さんが自由に使えるお金がいくらあるのかを調査しました。まず、妻に、ボーナスのうち、夫にお小遣いをあげる予定を聞いてみると、「あげる予定がある」と答えたのはわずか31.4%に留まり、残り約7割の人が「あげる予定がない」(34.8%)、「わからない」(33.8%)と答えました。お父さんが自由に使えるお金を手にするためには、財布の紐を握っている奥さまとの交渉が鍵となりそうです。

~チーフエコノミスト小玉 祐一はこう見る！~

■明治安田生命チーフエコノミスト 小玉 祐一

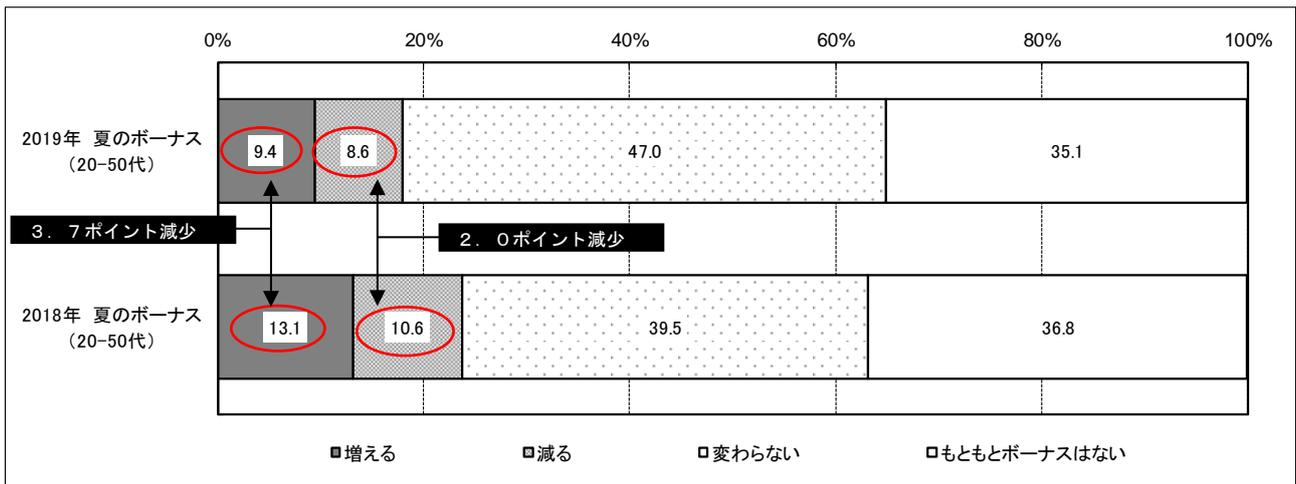


●今年の夏のボーナスについて

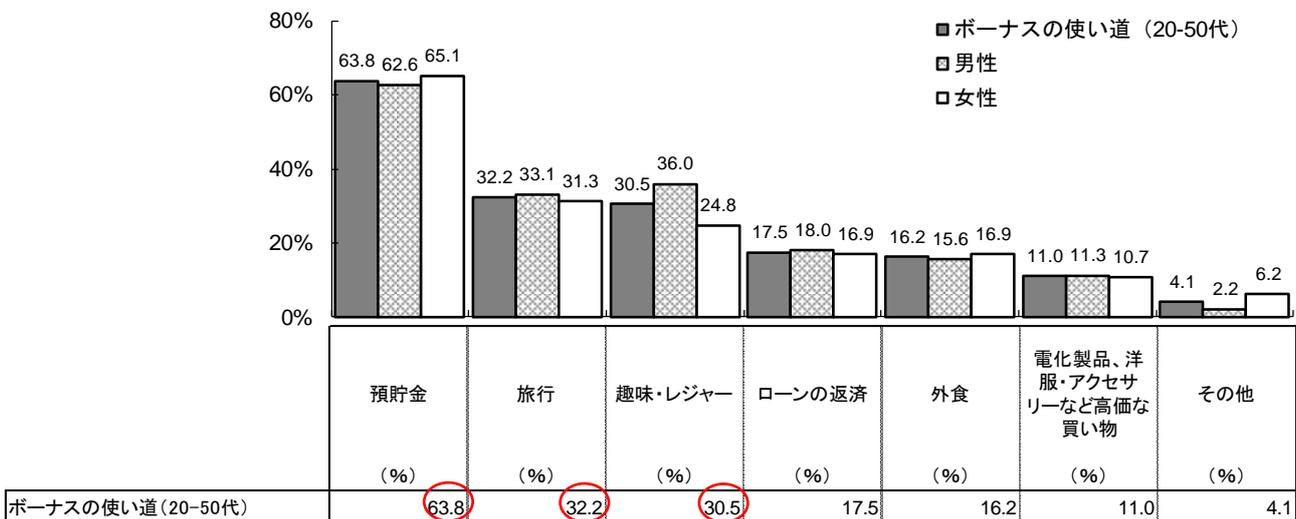
今回のアンケートでは、ボーナスが「増えた」と答えた人と、「減った」と答えた人が両方減少しましたが、「増えた」と答えた人の割合がより大きく減っています。実際、民間企業の調査でも、経団連の調査でも、今年の夏のボーナスは前年比マイナスとの結果が示されています。米中貿易摩擦への不透明感から、ボーナスの増額に慎重になる企業が増えたのが一因です。また、今年の春闘では、賞与よりも、賃金を底上げするベースアップ（ベア）を求めた労働組合が増えたことも影響している可能性があります。

63.8%もの人が、使い道のトップに預貯金を挙げていますが、これには「老後の資金問題」も影響しているのかもしれない。一方、夫にお小遣いを「あげる予定がある」という回答が31.4%に留まったのは、世の中のお父さんにとってショックでしょう。ボーナスが減る中では、「家庭内春闘」の交渉難航も必至と思われます。

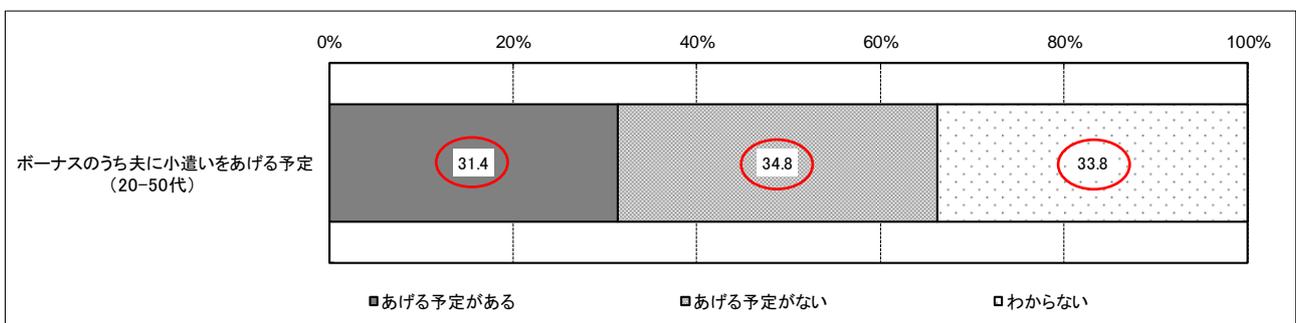
■夏のボーナスの増減（世帯あたり）



■ボーナスの使い道（複数回答）



■ボーナスのうち、夫にお小遣いをあげる予定



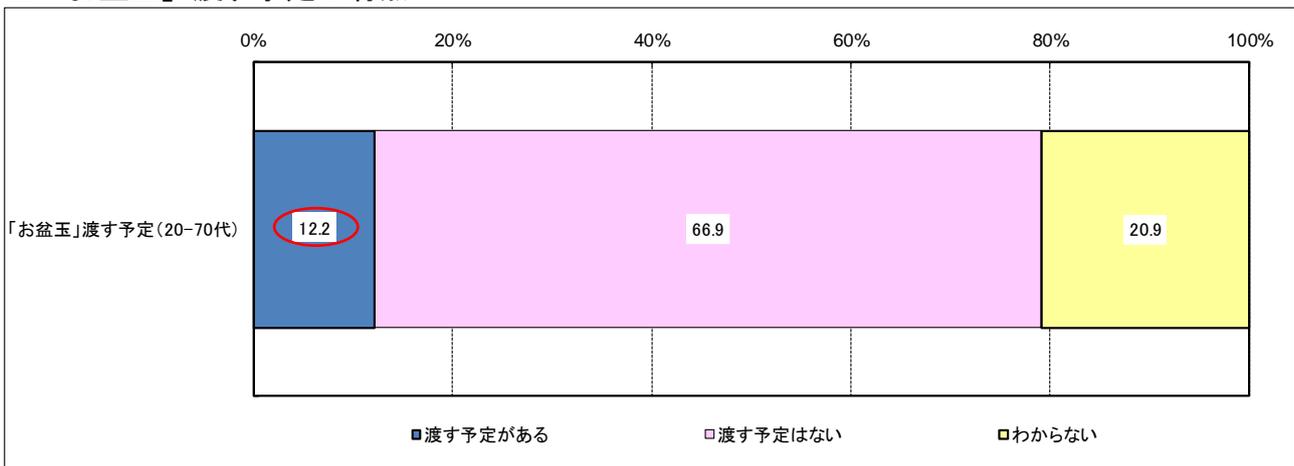
3. お盆玉について

**お盆玉は徐々に定着？ 70代は4人に1人が「渡す予定」と回答！
渡す金額は50代がトップ、60代、70代も平均1万円越え！**

○お盆に孫や親戚の子どもにお小遣いを渡す「お盆玉」について渡す予定を聞いたところ、20代から70代で「渡す予定がある」と答えたのは12.2%でした。夏休みの帰省が相次ぐお盆の時期は、孫との行楽費用やランドセルの購入など、孫がいるシニア層をターゲットに商戦が繰り広げられます。この中でも、「お盆玉」は孫への小遣いとして専用ポチ袋も一斉に販売されるなど、新しい習慣として徐々に浸透しているようです。

○さらに60代、70代を見たところ、60代では15.0%、70代では25.0%と実に4人に1人がお盆玉を「渡す予定がある」と答えており、他の年代より高い結果となっています。渡す金額を見ると、現役世代である50代が一番高く（12,946円）、続いて60代、70代も平均で1万円を超える結果となりました。孫や家族と過ごす夏休みを楽しみに、お盆玉を用意して待っている人は少なくないようです。特に50代では、現役世代で収入もあり、初孫を持つ人も多いことから、お盆玉で孫に渡す金額を奮発しているのかもしれない。

■ 「お盆玉」渡す予定の有無



	渡す予定がある	渡す予定はない	わからない	一人あたりのお盆玉平均額	
	(%)	(%)	(%)	(円)	(円)
男女計	12.2	66.9	20.9	2018年	2019年
20代	8.2	74.7	17.2	8,247	5,450
30代	8.2	65.4	26.4	4,203	5,045
40代	8.9	69.3	21.8	6,342	8,107
50代	7.9	72.9	19.3	10,490	12,946
60代	15.0	65.0	20.0	-	10,719
70代	25.0	54.3	20.8	-	10,395

渡す金額は50代が一番高く、12,946円

60代、70代も1万円越え

4. 帰省に関する調査

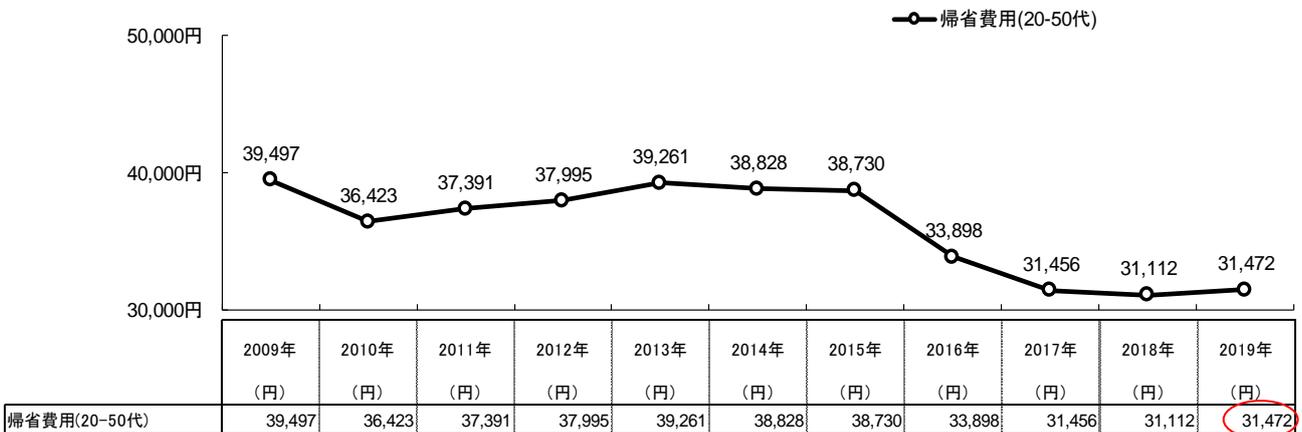
帰省費用は「31,472円」
「自動車」を選んだ人の選択理由は「安いため」がトップ!

○帰省の費用と手段について聞いてみました。

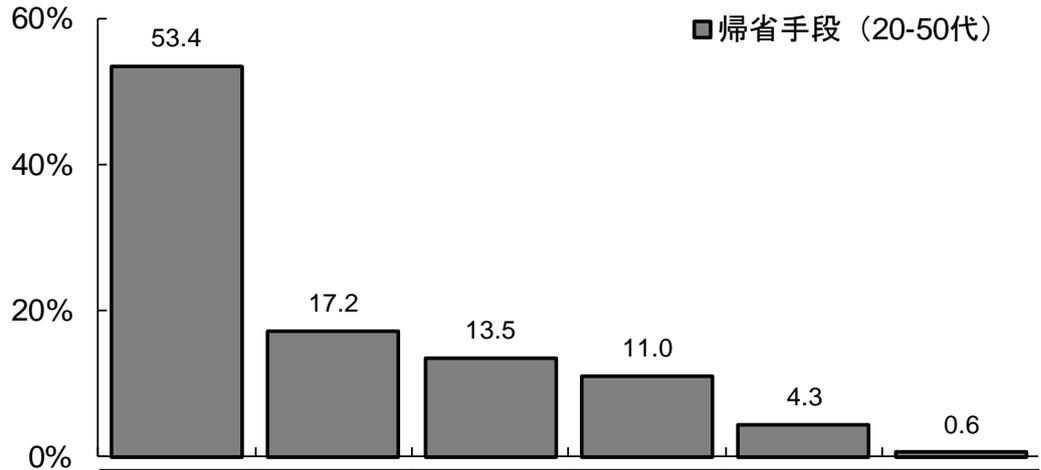
○帰省費用は「31,472円」と、調査開始以来最低額となった昨年とほぼ同額の低い水準となりました。

○帰省手段は「自動車」が53.4%と最も多くなりました。「自動車」を選んだ理由は、「安いため」が40.2%を占めトップとなりました。「節約志向」からコスト面でのメリットが大きいことが要因となっているようです。また、帰省手段を「自動車」と答えた人は特に「子供のいる人」に多く、実に67.0%という高い結果となりました。教育費等、何かと費用がかさむ子育て世帯にとっては、帰省費用も大きな出費の一つで、少しでも節約をしたい、という思いが反映しているのかもしれませんが。

■帰省費用



■帰省の手段



	自動車 (%)	新幹線 (%)	在来線 (%)	飛行機 (%)	バス (%)	その他 (%)
帰省手段(20-50代)	53.4	17.2	13.5	11.0	4.3	0.6
未婚計	18.4	26.3	31.6	13.2	10.5	-
既婚計	64.0	14.4	8.0	10.4	2.4	0.8
既婚子供なし計	50.0	18.2	4.5	18.2	4.5	4.5
既婚子供あり計	67.0	13.6	8.7	8.7	1.9	-

■自動車を選んだ人の選択理由 (複数回答)

	安いため (%)	乗り心地が 良いため (%)	早く着くため (%)	距離が近い ため (%)	距離が遠い ため (%)	その他 (%)
自動車の選択理由(20-50代)	40.2	19.5	25.3	40.2	8.0	3.4